

知って おきたい 消化の病気

第4回



丹野誠志

(たんの・さとし) 1990年旭川医科大学医学部卒、94年同大医学部大学院卒。消化器中央総合病院副院長に就任。12年より同病院院長。日本内科学会指導医。日本消化器病学会指導医。日本消化器内視鏡学会指導医。

あなどってはいい ない胆石の話

胆石はともよく知られた病気で、日本では成人の10人に1人が持っているといわれ、最近

では20歳代で診断される人も少なくありません。

肝臓で作られた胆汁は、胆管や胆嚢たんのうを通じて十二指腸に流れます。胆石は、この胆汁の成分が溶けにくくなって結晶化し、

胆管や胆嚢の中で固まって大きくなったものです。できた場所で、「胆嚢結石」、「胆管結石」などと呼ばれ、この2つが大部分を占めています。もっとも多いのは、胆嚢結石です。また、

結石が胆管に落ちることも多く、これを「落下結石」と呼びます。胆石が原因でおこる腹痛を「胆石発作」といいますが、食後、特に油ものを食べた後に起こることが多いのが特徴です。症状は腹痛以外にも、悪心、嘔吐があります。最初のうちは、胃の病気だと思ひ込み胃カメラ検査で異常がないといわれ、胃薬などを処方されることがあり

ます。しかし、放っておくと痛みだけではなく、発熱や黄疸おうだんなどが出ると、生命にかかわる危険な状態になる場合があります。緊急に治療をおこなう必要があるのでしよう。

胆嚢結石の治療は、「腹腔鏡手術」といって、昔のようにお腹を大きく切らない手術が一般的になってきました。胆石は、石だけを取れば済むわけではな

今月の ピックアップ ドクター

く、胆嚢そのものが病気の原因となっており、再発する可能性があるため、胆嚢を摘出する手術が根本的な治療です。

胆管結石に対しては、「内視鏡治療」が一般的です。内視鏡を使って、十二指腸にある胆管の出口から胆石を摘出します。

以前は、手術で胃をすべて切除した人(胃全摘)には、この治療法ができませんでしたが、現在ではダブルバルーン内視鏡という方法で可能になりました。

どちらの治療も、摘出や切除など治療の難易度がかなり高く、胆道専門医のいる施設での治療

が必要でしょう。

また、胆石があるのに症状のない人も多く、このような胆石を「サイレントストーン」といいます。しかし、胆石のある人は、胆嚢がんの併存にも注意が必要です。早期に専門医の診察を受けることをお勧めします。

